

平成29年度 第1回 練馬区区政改革推進会議

練馬区の人口の現状と将来推計

平成29年7月28日

練馬区 企画部 企画課

区の人口の現状
区の人口の特徴
区の人口の将来推計

— 目次 —

区の人口の現状

- (1) これまでの区の人口の推移
 - 長期推移
 - 直近10年の総人口の推移
- (2) 練馬区の人口規模
 - 全国自治体人口ランキング
 - 都内自治体人口ランキング
- (3) 練馬区の人口増加の状況
- (4) 人口が増えている要因は？
 - 転入者数・転出者数の状況
 - 出生数・死亡数の状況

区の人口の特徴

- (1) 人口構成の特徴
- (2) 年齢三区分別人口の推移
- (3) 年齢三区比率の推移
- (4) 高齢化の状況
- (5) 外国人人口の状況
 - 国籍別・在留資格別
 - 外国人人口の分布
 - 最近増えているのは何国籍？

区の人口の将来推計

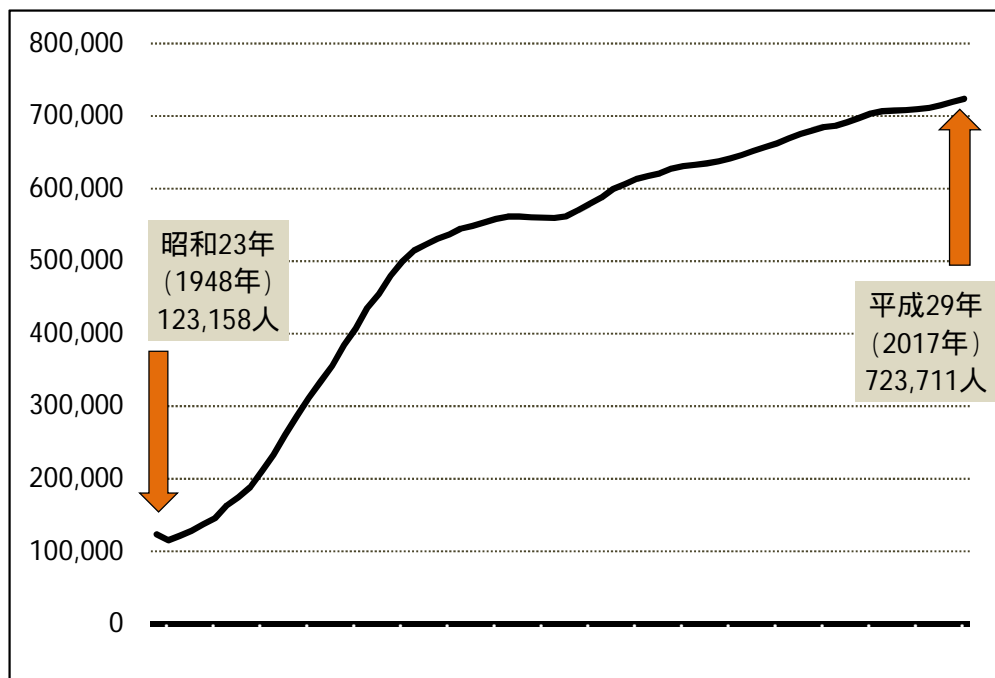
- (1) 日本の将来推計人口
- (2) 東京都の将来推計人口
- (3) 練馬区の将来推計人口(区全体)
 - 今回行った人口推計の手法について
 - 将来推計人口の推移
- (4) 練馬区の将来推計人口(地域別)
 - 練馬地域
 - 石神井地域
 - 大泉地域の将来推計人口
 - 光が丘地域の将来推計人口

練馬区の人口の現状

(1) これまでの区の人口の推移

長期推移 (昭和23～平成29年)

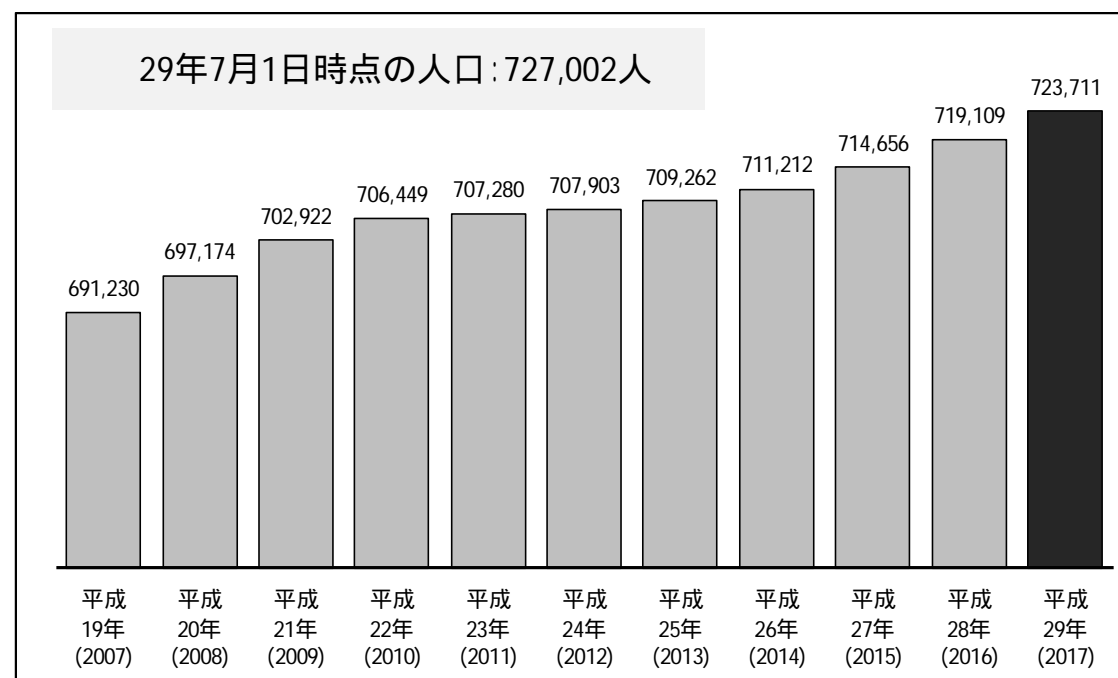
板橋区から分離独立後、70年かけて、約6倍に増加
戦後、宅地化が進み、ほぼ一貫して人口が増加



【出典】 練馬区統計書

直近10年の総人口の推移 (平成19～29年、各年1月1日)

直近10年の期間でも、一貫して増加している。
東日本大震災発災 (平成23年3月) 後、数年伸び悩んだが
平成26年以降、増加ペースが加速している。



【出典】 戸籍住民課資料

練馬区の人口の現状

(2) 練馬区の人口規模 ~ 他自治体との比較 ~

全国自治体人口ランキング (平成28年1月1日時点)

全国で19番目に大きな自治体
人口の規模でみると、鳥取県（約58万人）、
島根県（約70万人）を上回り、高知県
（74万人）に迫りつつある。

順位	市区町村	平成28年1月1日 人口
1	神奈川県横浜市	3,729,357 人
2	大阪府大阪市	2,681,555 人
3	愛知県名古屋市	2,269,444 人
4	北海道札幌市	1,941,832 人
5	兵庫県神戸市	1,547,850 人
	⋮	
17	新潟県新潟市	802,936 人
18	熊本県熊本市	735,234 人
19	東京都練馬区	719,109 人
20	神奈川県相模原市	716,643 人

【出典】 総務省「住民基本台帳による世帯と人口（28年1月）」

都内自治体人口ランキング (平成29年1月1日時点)

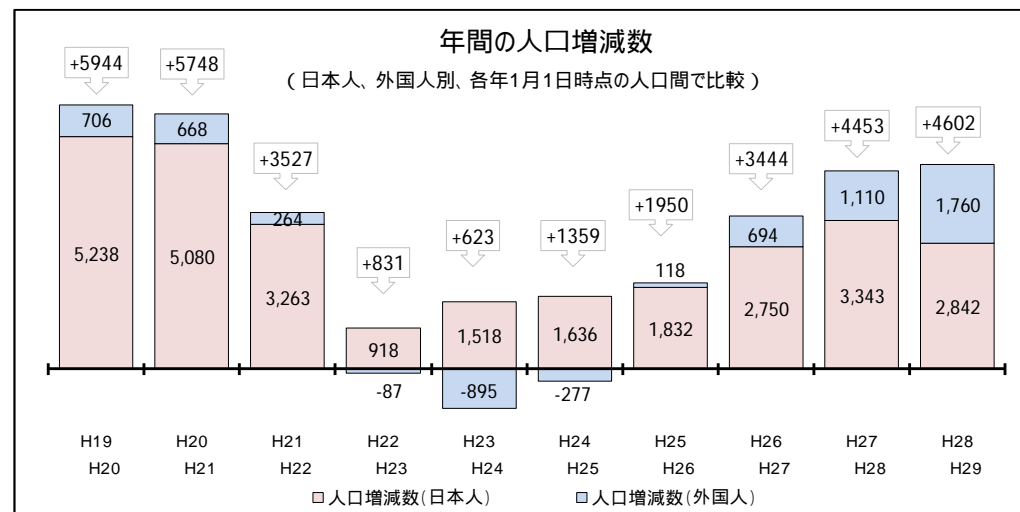
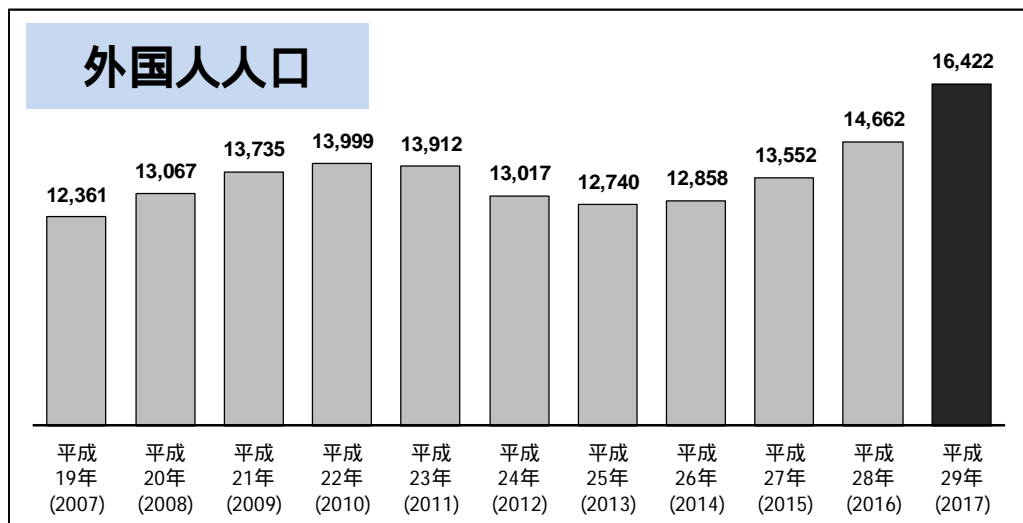
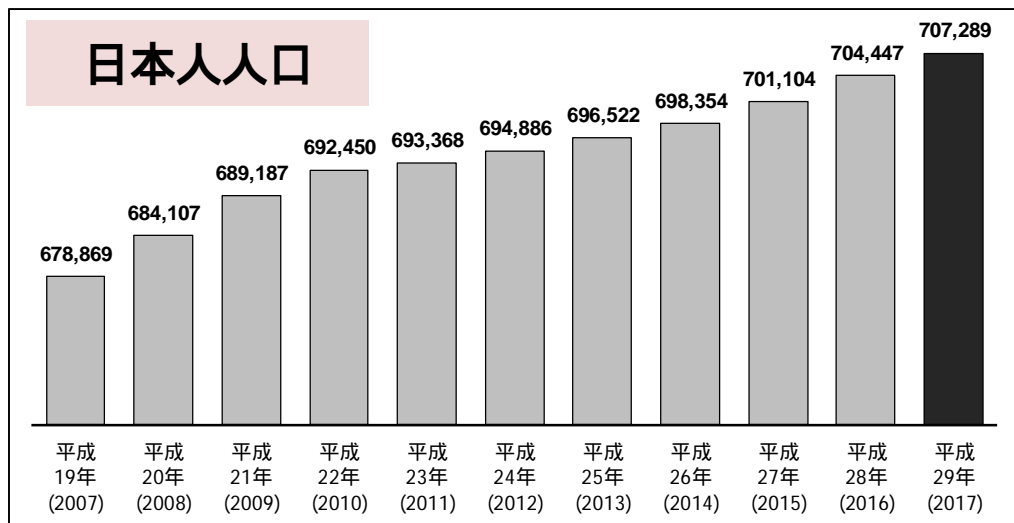
都内でみると2番目に大きな自治体
都心3区（千代田区、中央区、港区）の
増加が話題になることが多いが、人口規模では
周辺区が圧倒的に多い。

順位	区・市	29年1月1日 人口
1	世田谷区	892,535 人
2	練馬区	723,711 人
3	大田区	717,295 人
4	江戸川区	691,514 人
5	足立区	681,281 人
6	八王子市	563,228 人
7	杉並区	558,950 人
8	板橋区	557,309 人
9	江東区	506,511 人
10	葛飾区	456,893 人

【出典】 東京都「住民基本台帳による世帯と人口（29年1月）」

練馬区の人口の現状

(3) 練馬区の人口増加の状況 (平成19～29年)



日本人人口は、一貫して増加している。
 外国人人口は、東日本大震災の影響もあり、平成23～25年は減少しているが、平成26年以降は再度上昇に転じている。
 区の人口増加に占める外国人の割合は27年以降大きくなってきている。

練馬区の人口の現状

(4) 人口が増えている要因は？

【メモ】人口が増減する要因は？

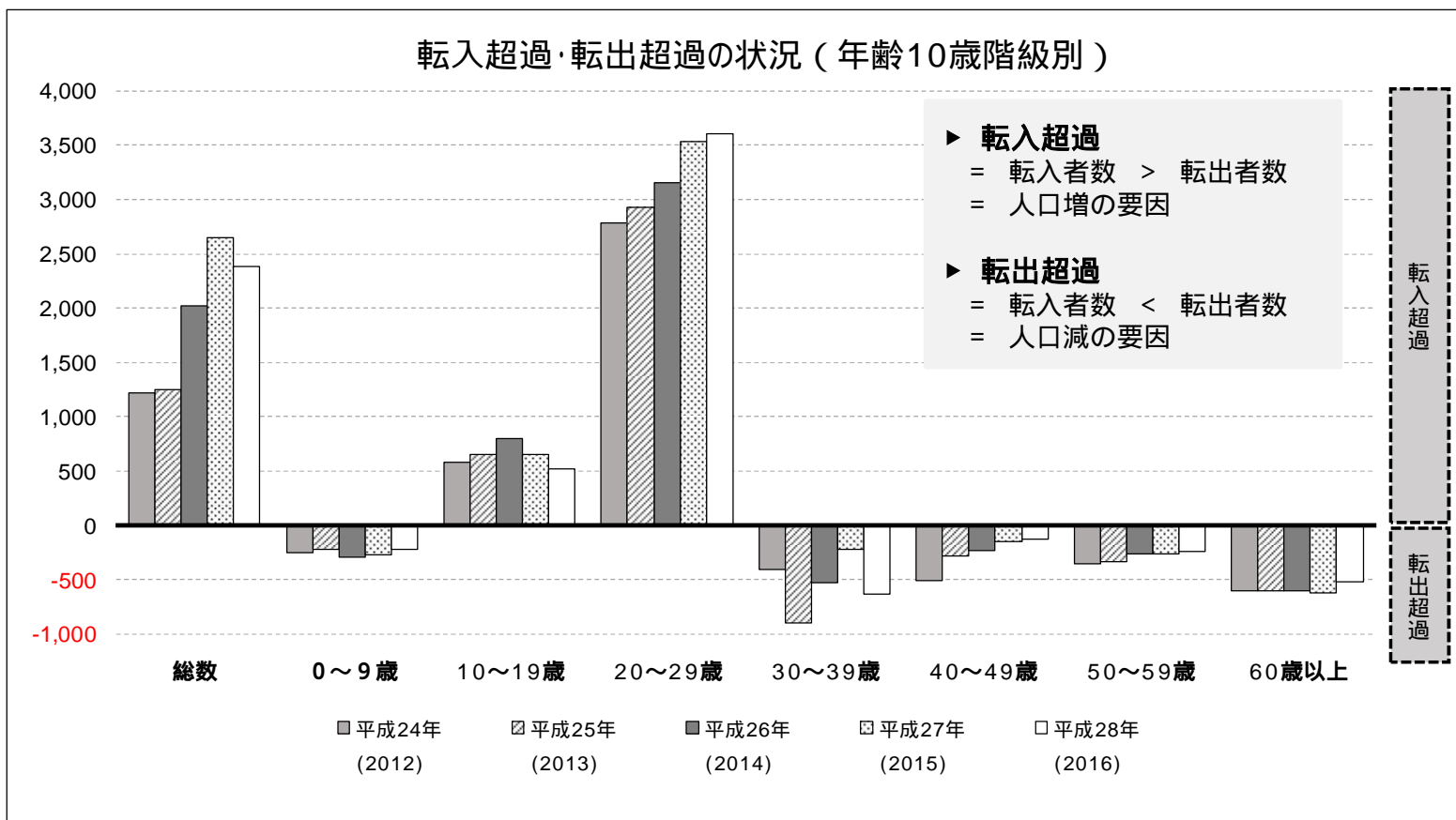
「社会増減」 = 転入者数(+)と転出者数(-)の関係

「自然増減」 = 出生数(+)と死亡数(-)の関係

転入者数・転出者数の状況（平成24～28年）

平成24～28年の状況を見ると、全体では「転入超過」の状態にあり、人口増加に寄与していることが分かる。

しかし、年齢別で状況を見てみると、「転入超過」なのは、10～29歳であり、それ以外の年齢帯では転出者が多くなっている。

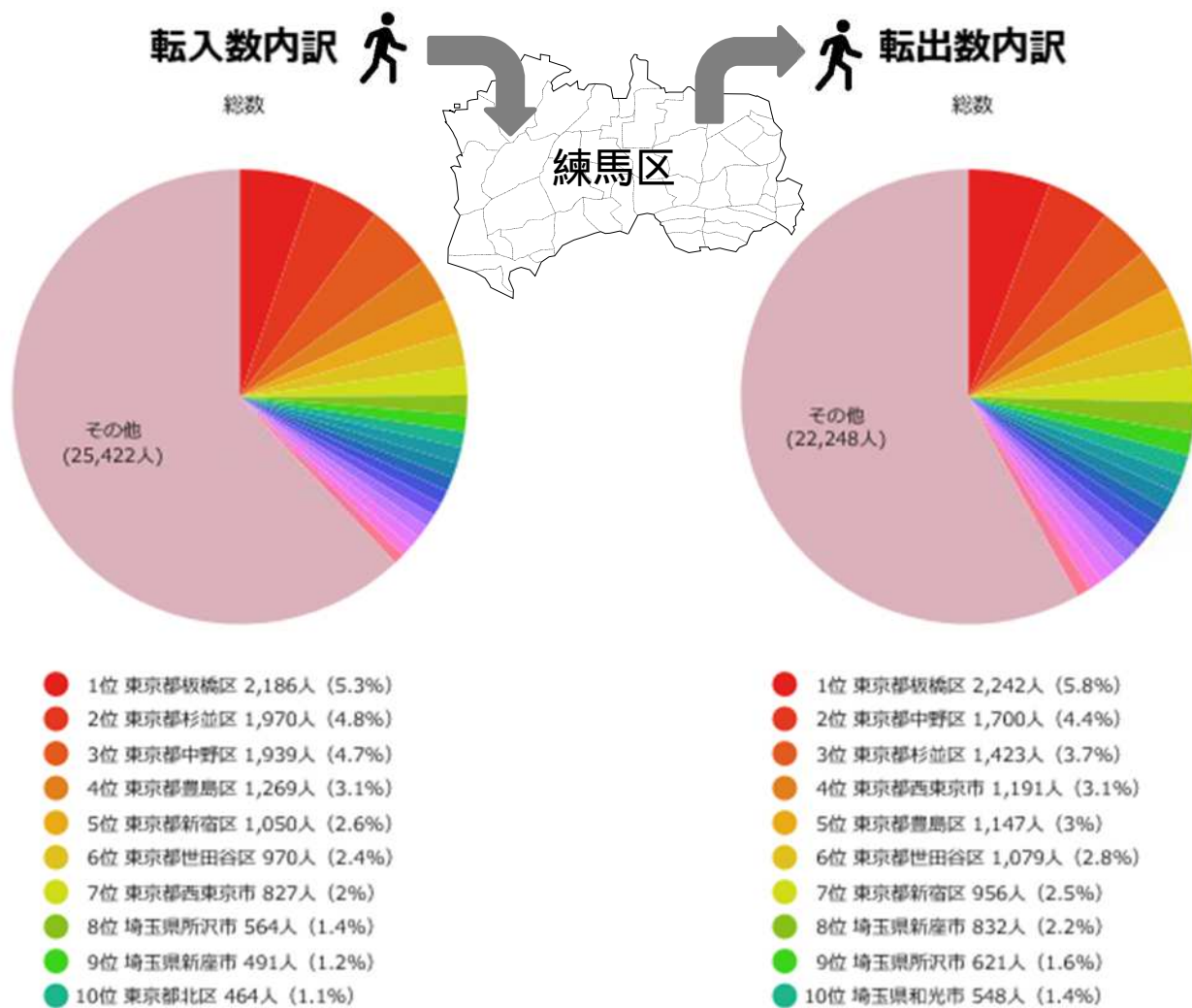


【出典】
住民基本台帳
人口移動報告

練馬区の人口の現状

(4) 人口が増えている要因は？

【参考】 人口の流れ ～どこから来て、どこへ行くのか～ (平成27年)



左図は平成27年の「転入前の自治体」、「転出先の自治体」について、多かった10自治体をランキングにしたものである。

転入元、転出先自治体ともに周辺自治体が多い。

「転入数内訳」の半数以上を占めるのが「その他」であり、東京圏以外の自治体が多数を占めている。ここから、地方からの転入者が区の人口増に寄与していることが分かる。

【出典】
地域経済分析システム (RESAS)
(住民基本台帳人口移動報告)

練馬区の人口の現状

(4) 人口が増えている要因は？

出生数・死亡数の状況（平成14～27年）

【メモ】人口が増減する要因は？

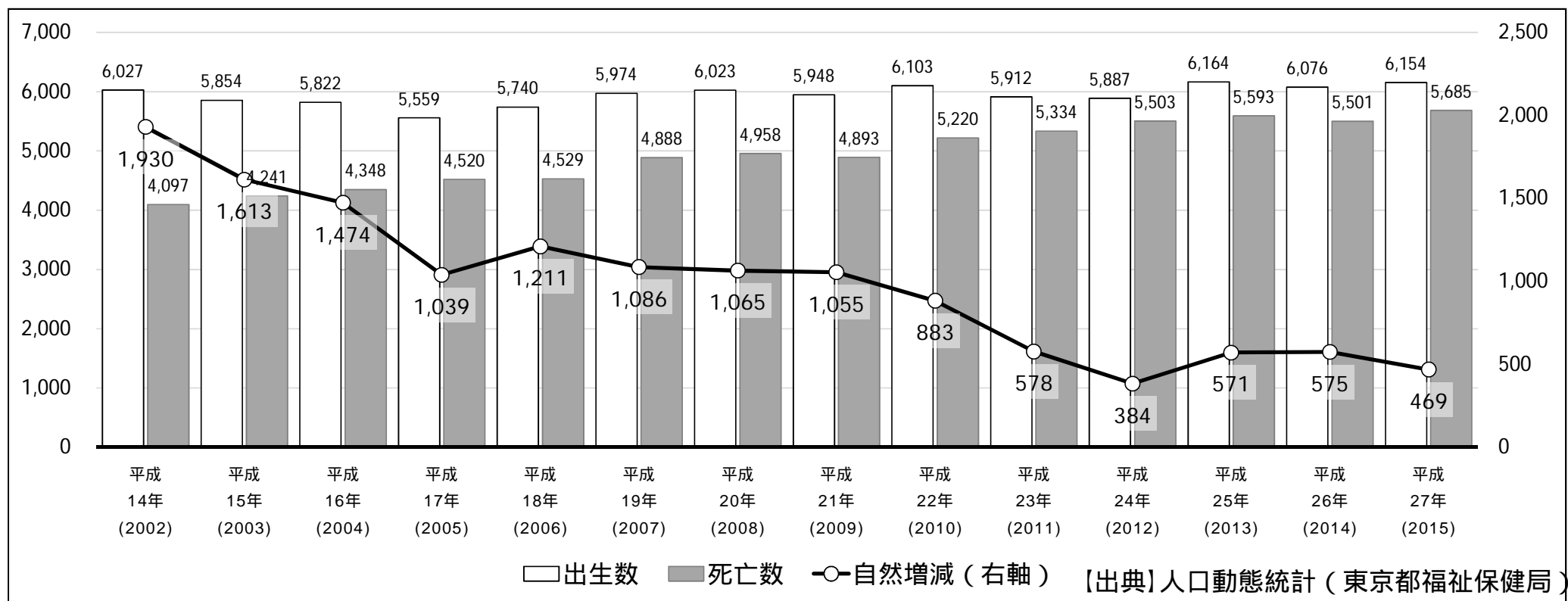
「社会増減」 = 転入者数(+)と転出者数(-)の関係

「自然増減」 = 出生数(+)と死亡数(-)の関係

「出生数 > 死亡数」の状態を「自然増」、「出生数 < 死亡数」の状態を「自然減」という。

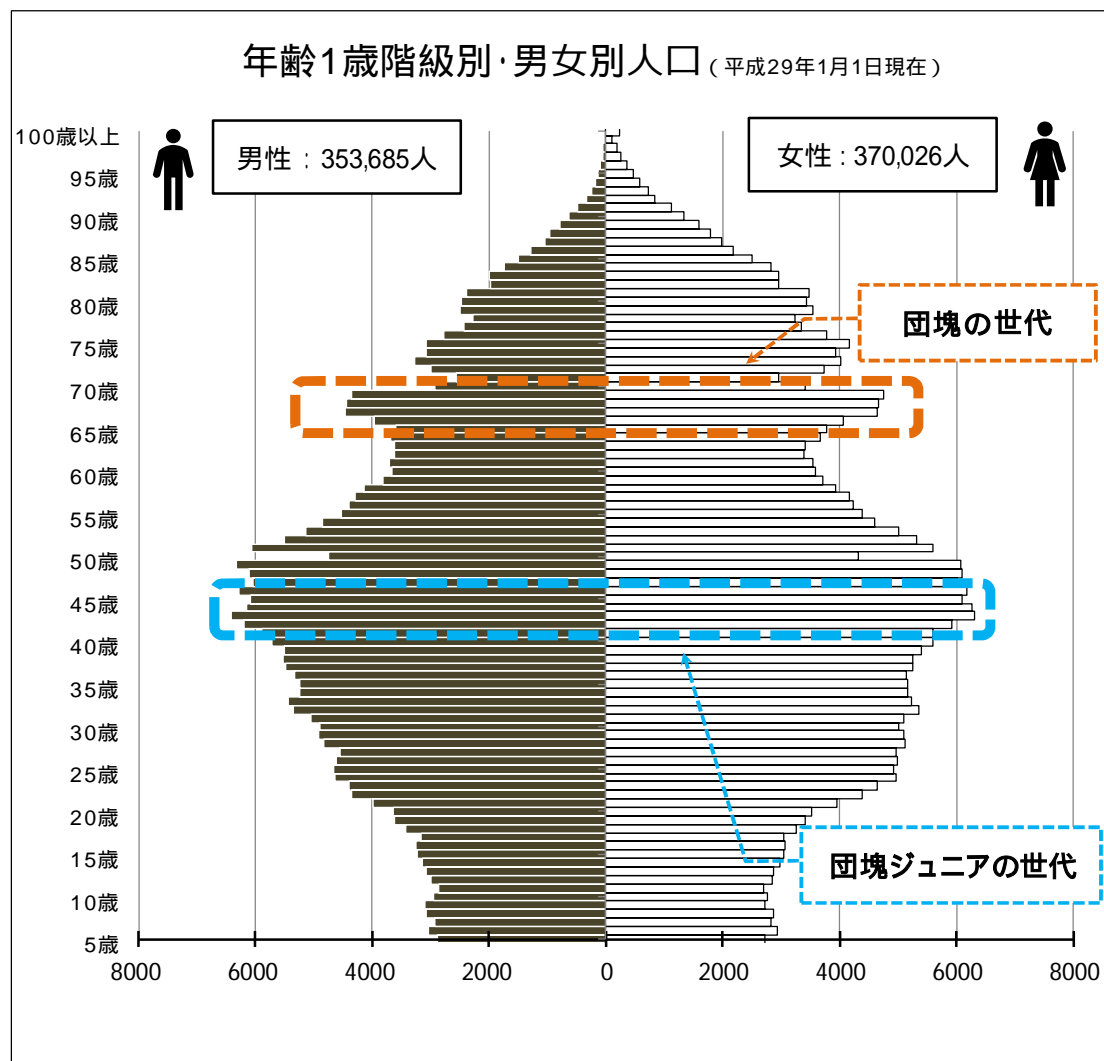
平成14～27年の状況を見ると、「自然増」の状態が続き、人口増加に寄与していることが分かる。

しかし、高齢化の進展に伴い、死亡数が増え、近い将来に「自然減」の状態に陥ることが推定される。



区の人口の特徴

(1) 人口構成の特徴 (平成29年1月1日現在)



【出典】 戸籍住民課資料

人口の多い年齢層は、男女とも40～45歳代となっている。いわゆる「団塊ジュニア」と呼ばれる世代である。

「団塊の世代」は全員高齢者人口に移行し、70歳を迎えようとしている。

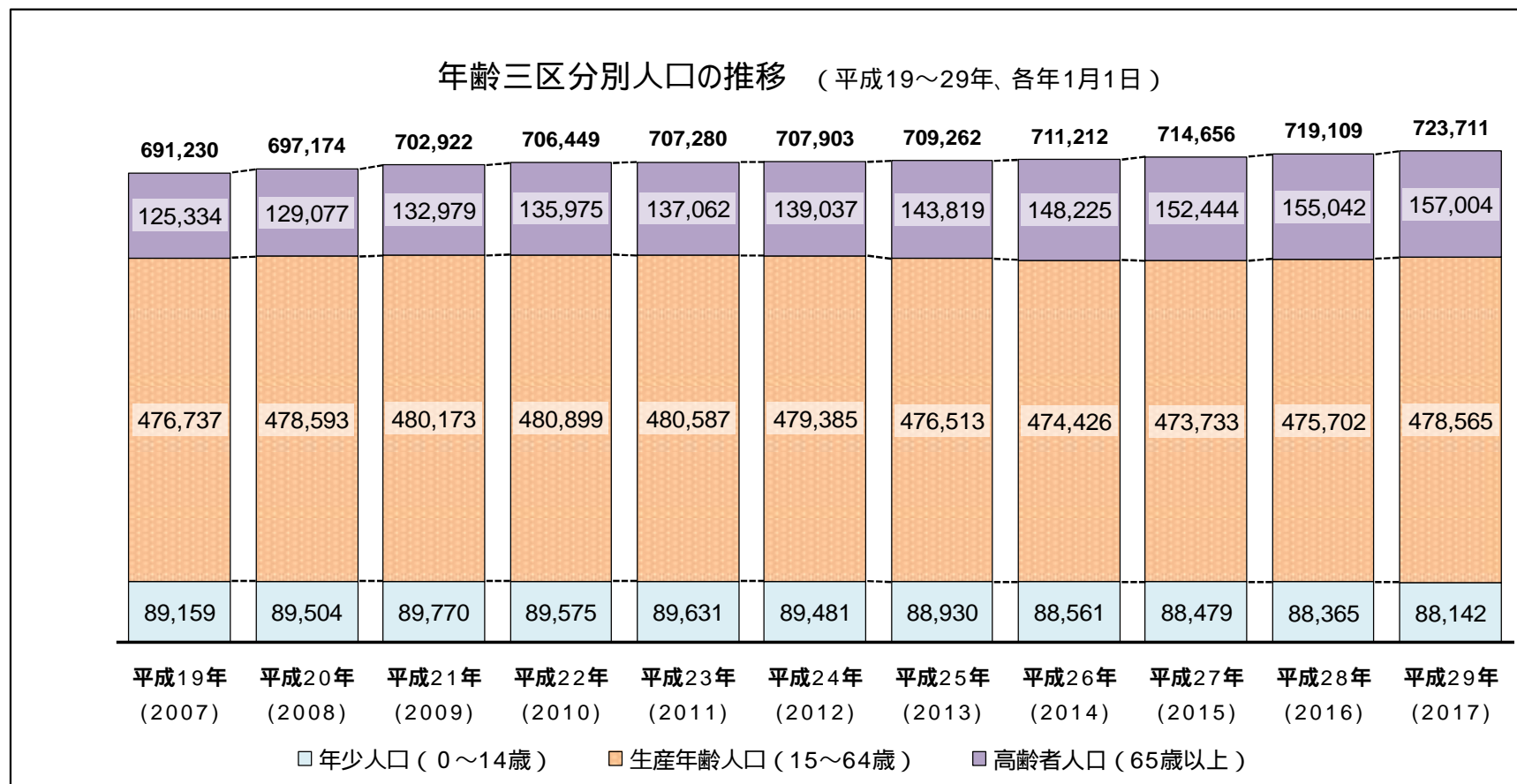
20歳以下の世代の人口が他の世代に比べ急激に少なくなっているのが分かる。

未婚者の増加、それに伴う少子化の影響が大きいと思われる。

区の人口の特徴

(2) 年齢三区分別人口の推移 (平成19~29年)

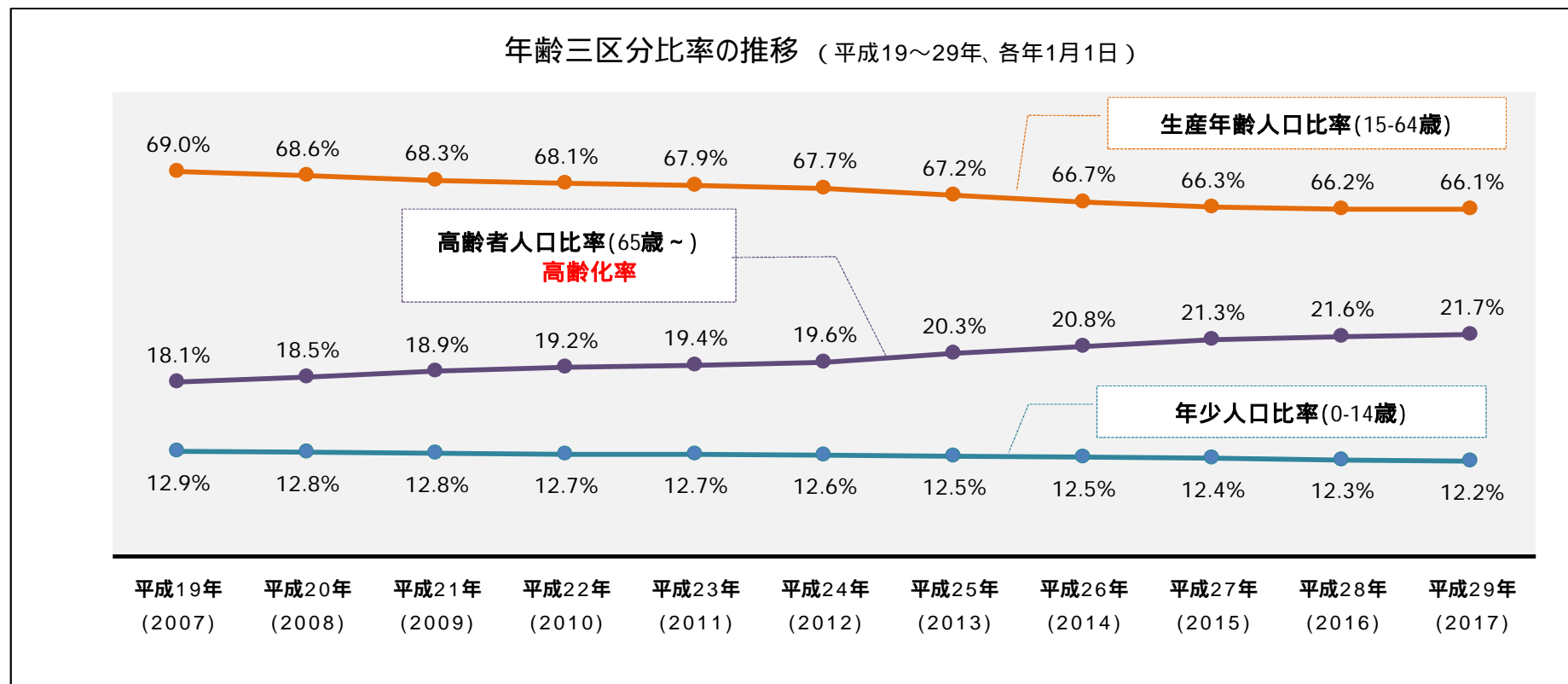
年少人口 (0-14歳) は、平成23年以降、減少傾向にある。
生産年齢人口 (15-64歳) は、明確なトレンドがなく、増減を繰り返している。
高齢者人口 (65歳-) は、年々増加し続けている。



区の人口の特徴

(3) 年齢三区分比率の推移（平成19～29年）

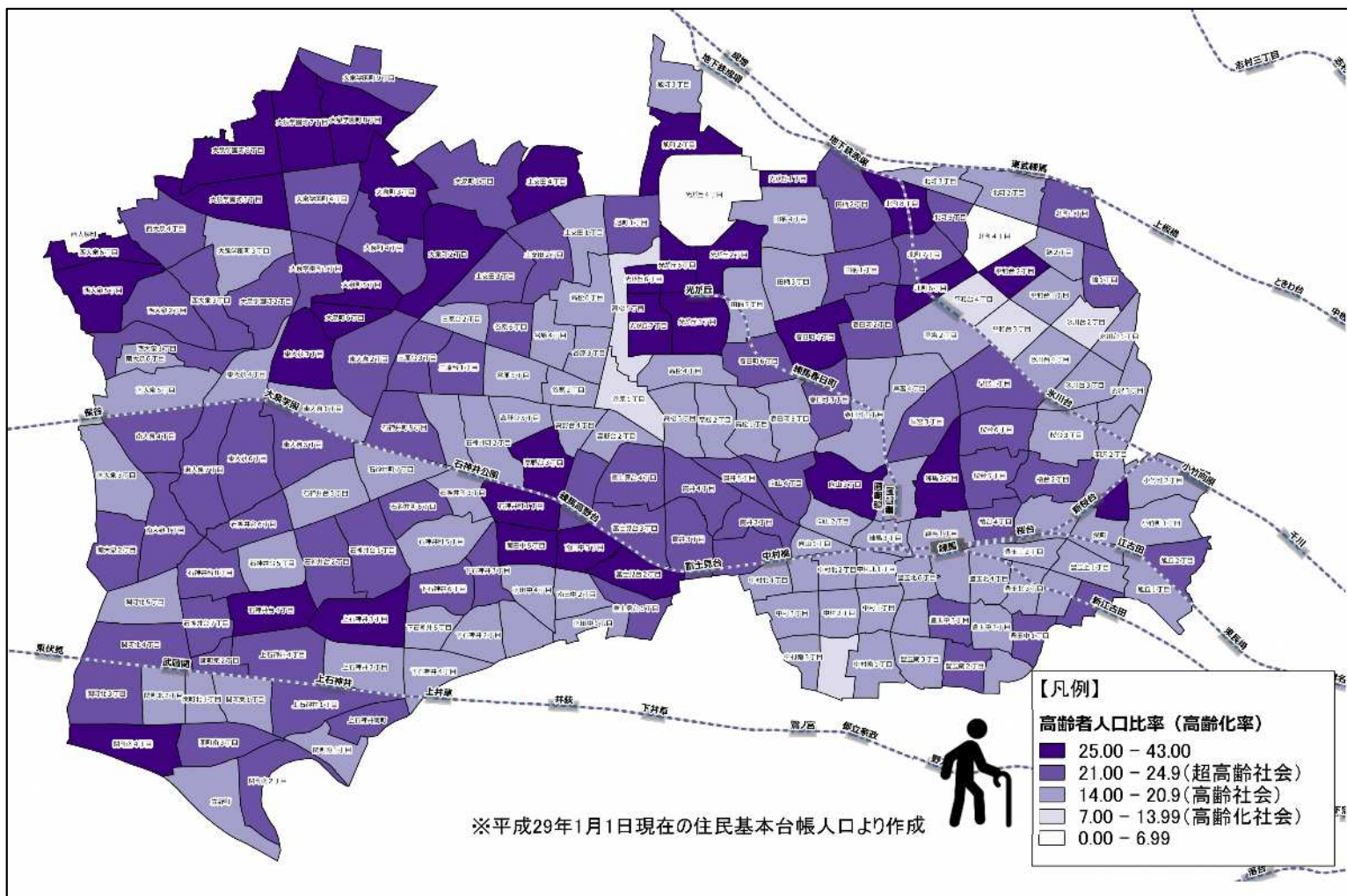
平成19年以降の推移を見ると、生産年齢人口比率が低下し、高齢者人口比率が上昇という流れが継続
これは、65歳を迎え生産年齢人口から高齢者人口に移行する者が多かった点が要因として挙げられる。
団塊の世代が65歳を迎えた平成24年から25年にかけて、高齢者人口比率が大きく上昇している。



【出典】 戸籍住民課資料

区の特徴

(4) 練馬区の高齢化の状況は？ (平成29年1月1日現在)



町丁目ごとの「高齢化率」を数値別で色分けしたものが左図である。

区の東部よりも西部に高齢化率の高い地域が多い。特に大泉地域が高い。

光が丘団地、都営上石神井団地、南田中団地等大規模団地のある地域も高くなっている。

区の人口の現状

(5) 外国人人口の特徴

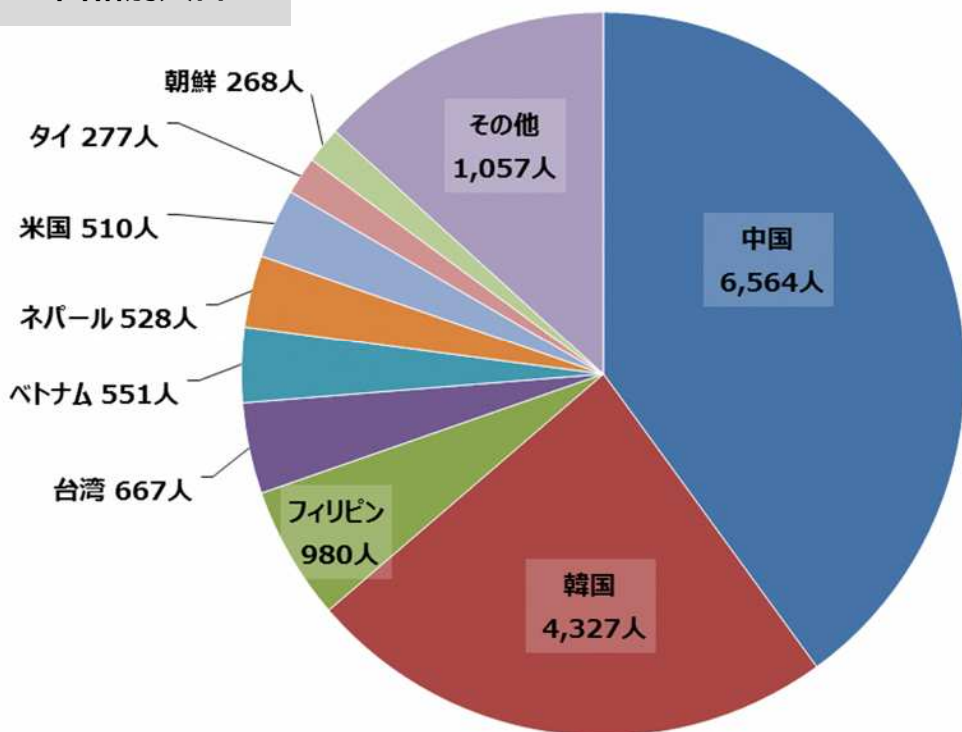
国籍別・在留資格別で見ると・・・（平成29年1月1日現在）

【メモ】
▶ 外国籍を持つものが、日本に滞在し、何らかの活動を行う場合は、活動に対応した「在留するための資格」が必要となる。

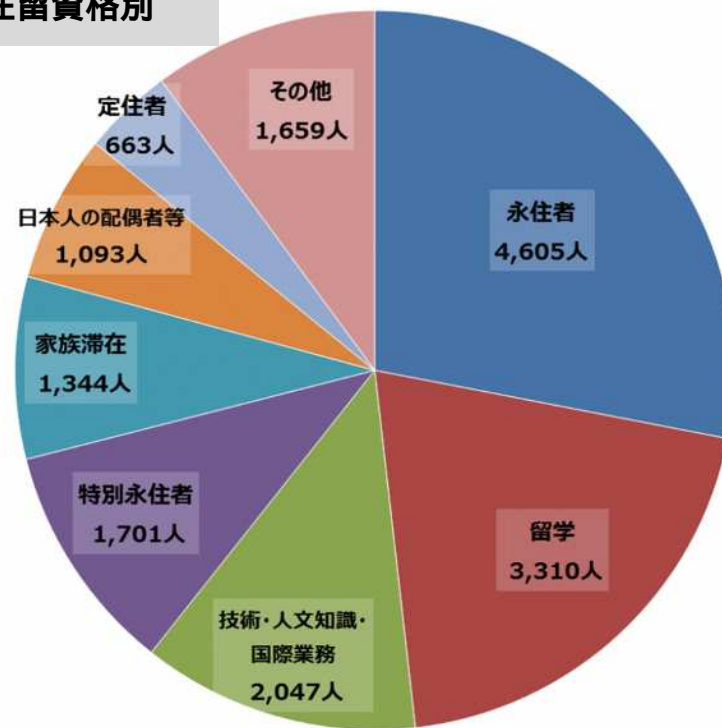
国籍別で見ると、上位は概ね全国の傾向と同じ
全国では4位にくるブラジル国籍が、区では18位と少ない。

在留資格別で見ると、順位は東京都全体の傾向と同じ
「留学」「技術・人文知識・国際業務（＝就労資格）」を持つ登録者が、それぞれ前年比で約750人増えている。

国籍別人口



在留資格別



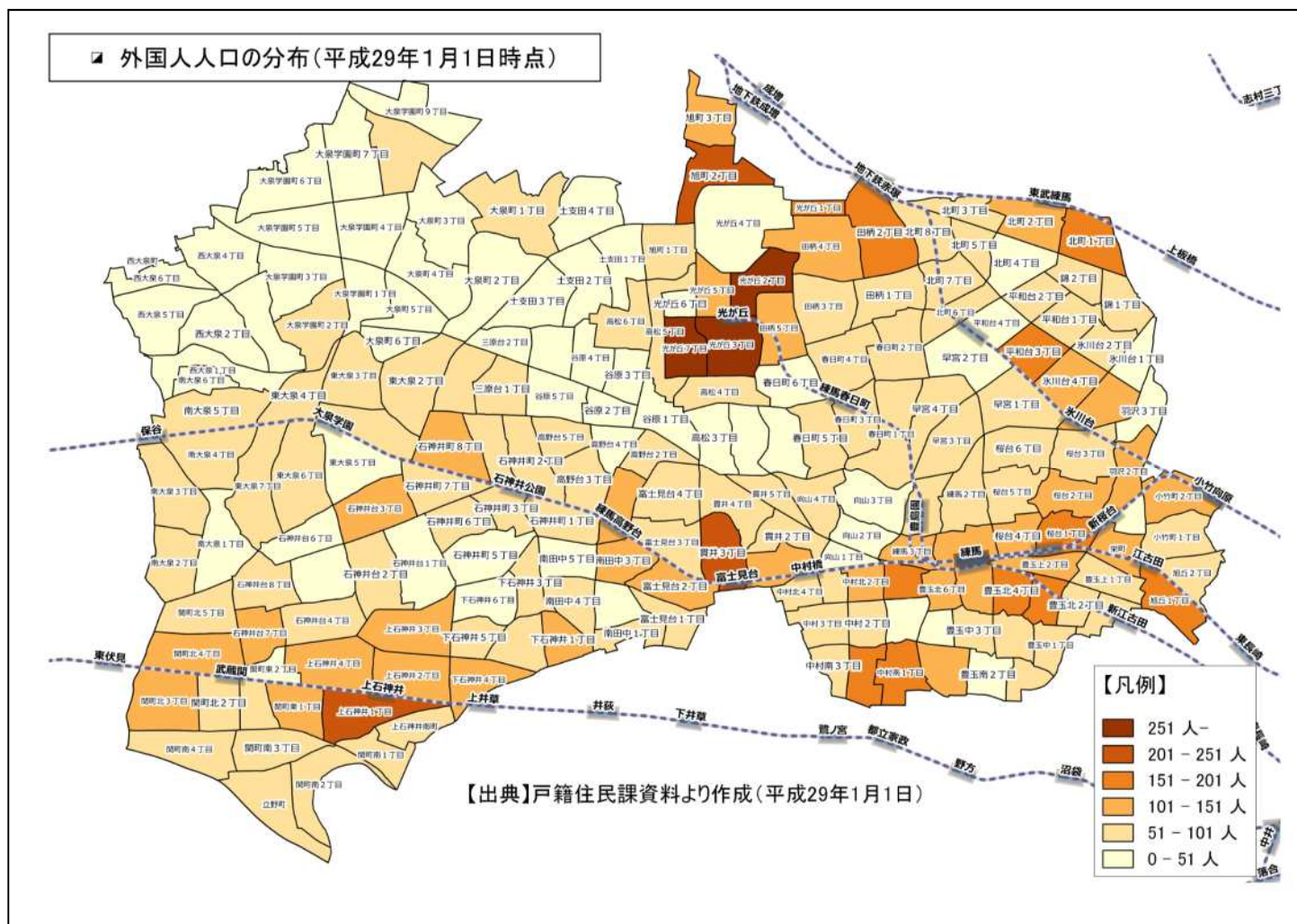
【出典】東京都の統計「外国人人口」

【出典】戸籍住民課資料

区の人口の特徴

(5) 外国人人口の特徴

外国人が多く住む地域は？（平成29年1月1日現在）



町丁目ごとの外国人住民数で色分けしたものが左図である。

鉄道沿線の町丁目に多く居住している傾向がみられる。

留学生や企業に勤めている外国人も、通学・通勤に便利な駅に近いエリアを選んでいるものと思われる。

区の人口の特徴

(5) 外国人人口の特徴

最近増えているのは何国籍？（平成29年1月1日現在）

平成25年と平成29年の国籍別人口を比較し、増加数の上位5位をまとめたのが下記の表である。
国籍別の人口は、その時々国家間の関係、国の方針変更、災害の発生等の影響で短期間で大きく増減する。

（例）国家間の関係……日中関係、日韓関係の冷え込み

国の施策 …… 特定の国への入国許可（ビザ）の基準緩和、入国許可審査基準の厳格化

大災害の発生……東日本大震災の発生による帰国

順位	国籍・地域	人口増加数 (H25 H29)	平成25年 1月1日時点 人口	平成29年 1月1日時点 人口	主な増加の要因
1	中国(台湾含む)	+2,087	5,144	7,231	留学生の増加
2	ベトナム	+424	127	551	留学生の増加
3	ネパール	+297	231	528	調理師とその家族の入国・転入による
4	韓国・朝鮮	+214	3,951	4,165	永住者の増加(他区からの転入)
5	フィリピン	+122	858	980	専門的・技術的分野で活躍する外国人の増加

区の人口の特徴

(5) 外国人人口の特徴

【参考】外国人の人口動向

区の外国人人口が平成26年以降に急増しているが、これは練馬区に限ったことでなく、東京都や全国的にも同じ傾向となっている。

練馬区の総人口に占める外国人住民の比率は2.3%と、他区に比べ低い。今後高まっていく可能性が高い。

■ 外国人人口の推移（平成19-29年）

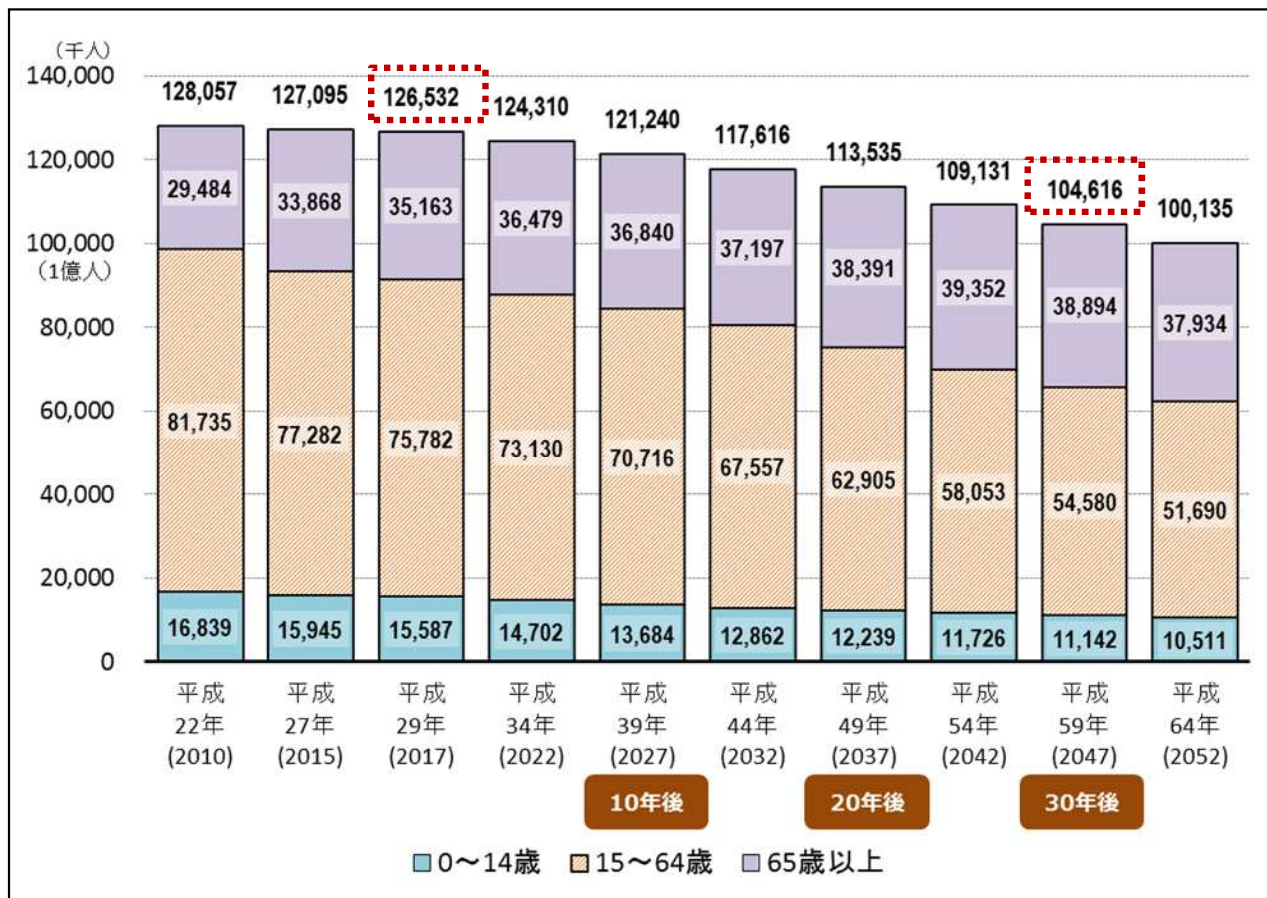


区域	外国人人口	外国人住民比率
東京都	486,346	3.6%
区部	410,650	4.4%
千代田区	2,665	4.5%
中央区	6,176	4.1%
港区	18,992	7.6%
新宿区	41,235	12.2%
文京区	9,174	4.3%
台東区	14,600	7.5%
墨田区	11,495	4.3%
江東区	26,077	5.1%
品川区	11,742	3.1%
目黒区	8,094	3.0%
大田区	21,599	3.0%
世田谷区	18,196	2.0%
渋谷区	9,825	4.4%
中野区	15,693	4.8%
杉並区	14,543	2.6%
豊島区	27,060	9.5%
北区	19,552	5.7%
荒川区	17,831	8.4%
板橋区	22,667	4.1%
練馬区	16,422	2.3%
足立区	27,417	4.0%
葛飾区	18,768	4.1%
江戸川区	30,827	4.5%

【出典】東京都の統計「外国人人口」

練馬区の人口の将来推計

(1) 日本の将来推計人口 (平成29年4月国立社会保障・人口問題研究所公表)



30~40歳代の出生率の向上を踏まえ、5年前に示された同推計よりも、人口減少のペースは緩やかにやっていますが、増加に転じることはなく、減少が続くことは変わらない。

今後30年間で1億2,600万人の人口が、1億460万人と、約2,200万人減少する。

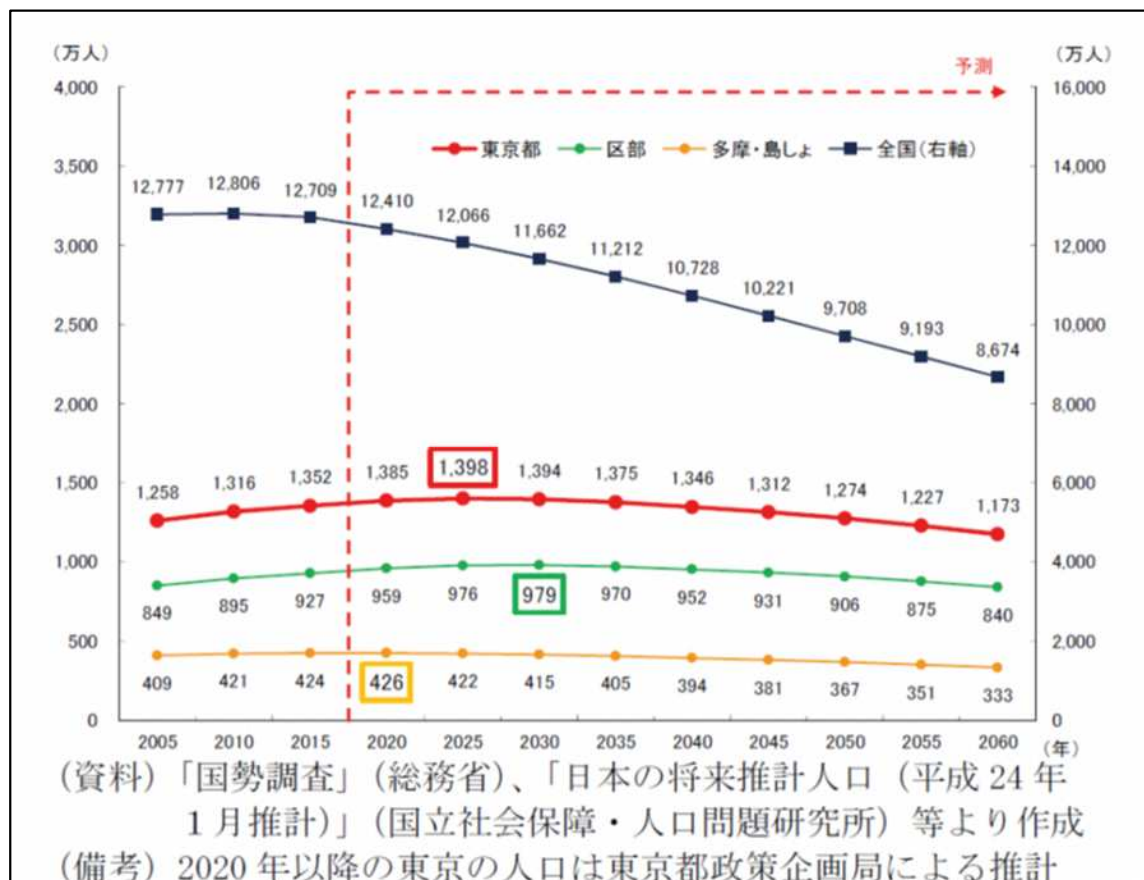
これは、東京都(約1,300万人)と神奈川県(約910万人)の全人口が消滅するのに匹敵する。

東京圏への人口の供給源となっている地方の人口が減少に向かえば、早晚東京都の人口も減少に向かう。

(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」「(出生・死亡中位推計)より作成

練馬区の人口の将来推計

(2) 東京都の将来推計人口 (平成28年12月東京都公表資料より)



最近の傾向として、都心部(千代田区・中央区・港区)を中心として、東京都内の自治体の多くが人口増加が続いている。

東京都が行った将来推計人口によると、
 ・多摩・島嶼部 2020年(平成37年)頃
 ・区部 2025年(平成42年)頃
 をピークに減少に転じるという結果となっている。

(出典) 東京都『都民ファーストでつくる「新しい東京」～2020年に向けた実行プラン～』(平成28年12月)より

練馬区の人口の将来推計

(3) 練馬区の将来推計人口

今回行った人口推計の手法について

採用した手法：「コーホート要因法」

「コーホート要因法」とは

基準年次の男女・年齢別人口を出発点とし、

社会増減（転入・転出）に係る設定値、

自然増減（出生・死亡）に係る設定値

を適用して将来人口を計算する方法。

今回の設定値は以下のとおり

基準人口：平成29年1月1日人口

「社会増減」に係る設定値 過去5年の住民基本台帳人口から男女・年齢別の「純移動率」を算出

「自然増減」に係る設定値 （出生）過去5年の「15～49歳女性人口と0歳児人口の比率」から算出

（死亡）平成22年生命表（東京都分）から算出

各種設定値を過去5年の数値から算出しており、これは「過去5年と同じトレンドが今後も継続した場合に将来人口はどうか」ということを表している。

今回の推計では、日本人については郵便番号別の4地域ごとに、外国人については練馬区全域で行った。

練馬区の人口の将来推計

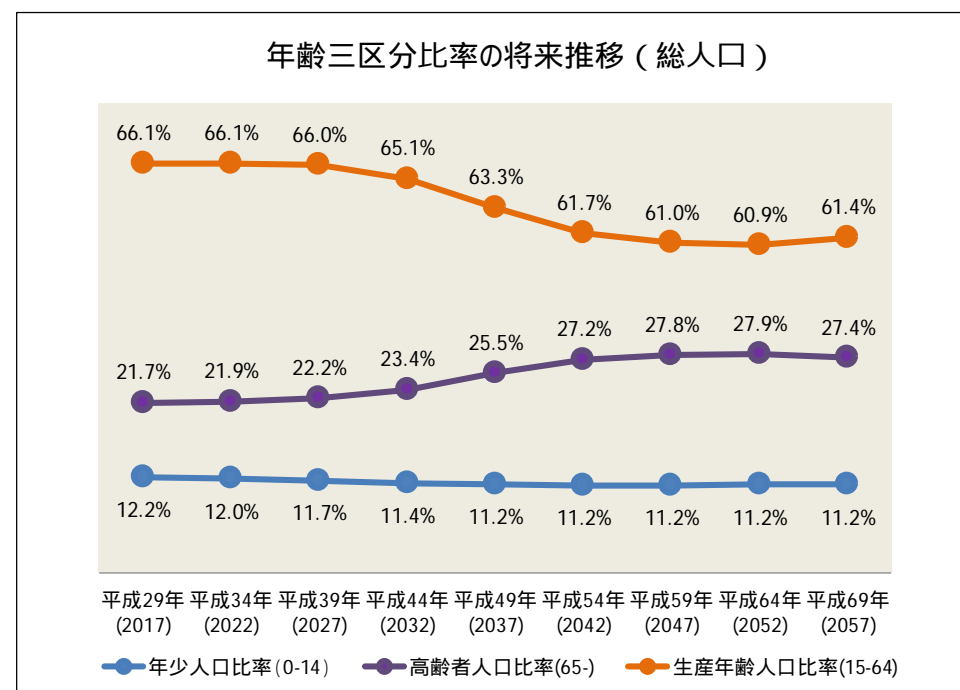
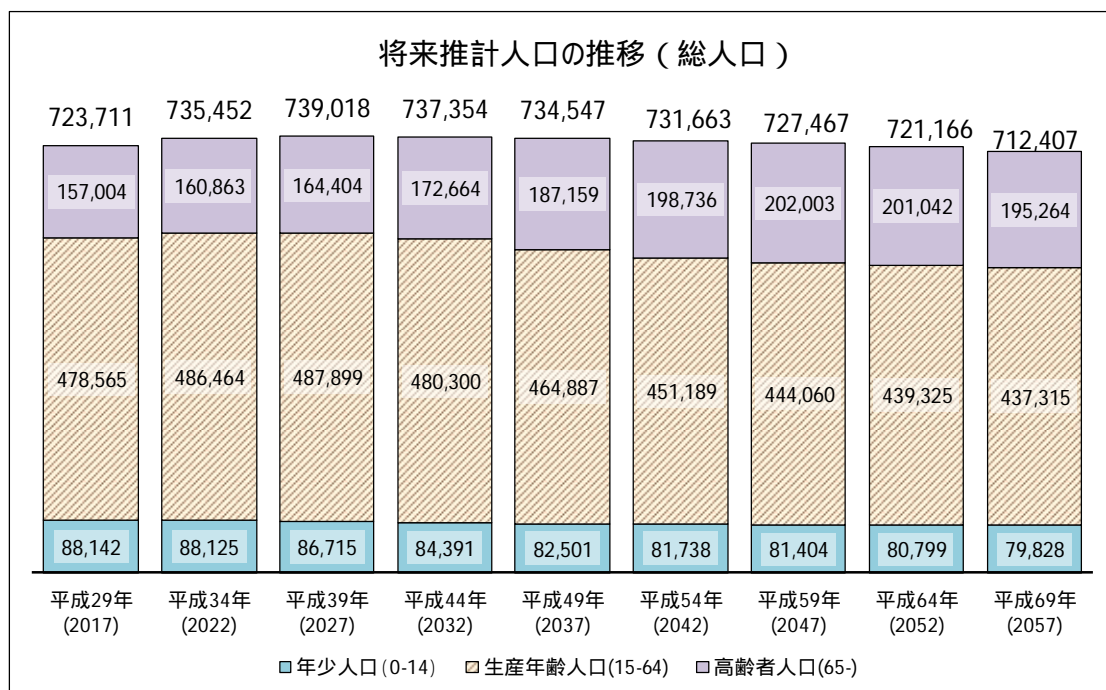
(3) 練馬区の将来推計人口(区全域)

練馬区の将来推計人口(実数・年齢三区分比率)

区の総人口は、平成39年頃をピークに減少に転じる。

30年後の平成59(2047)年では約727,000人となり、現在とほぼ同じ規模の人口を維持している。

しかし、人口構成は大きく変わっており、年少人口、生産年齢人口が大きく減少する一方、高齢者人口が急増している。高齢者人口比率(高齢化率)が27%に達し、4人に1人が高齢者となる。

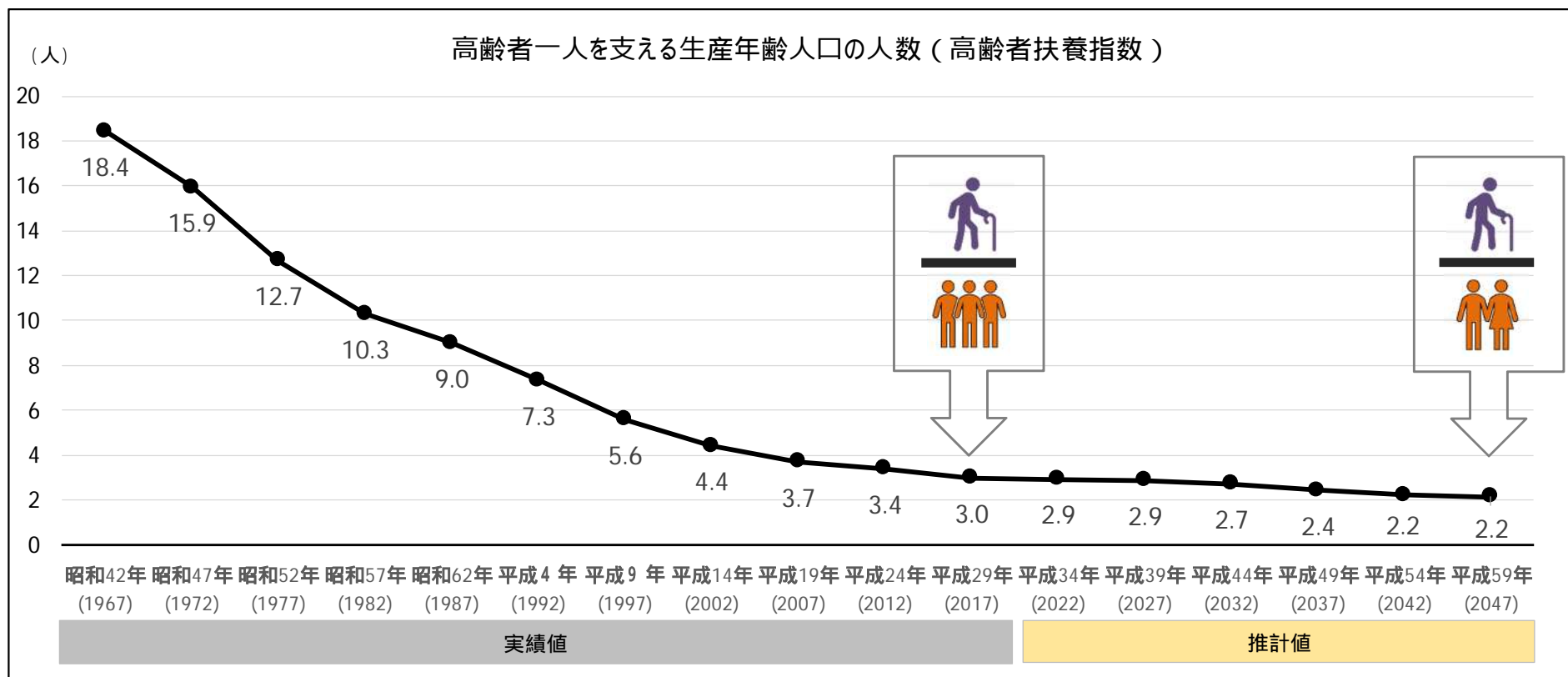


練馬区の人口の将来推計

(3) 練馬区の将来推計人口(区全域)

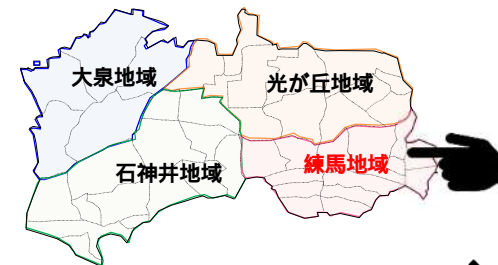
【参考】高齢者一人を何人で支えているの？

「高齢者一人を支える生産年齢人口の人数の推移」を表したのが下記のグラフである。
30年前の1987年は、9人で1人の高齢者を支えていたが、直近の2017年では3人で1人の高齢者を、
30年後の2047年には2人で1人を支えることになる。
生産年齢人口の全員が労働力人口ではないので、生産年齢人口に係る負担はより大きくなると思われる。



練馬区の人口の将来推計

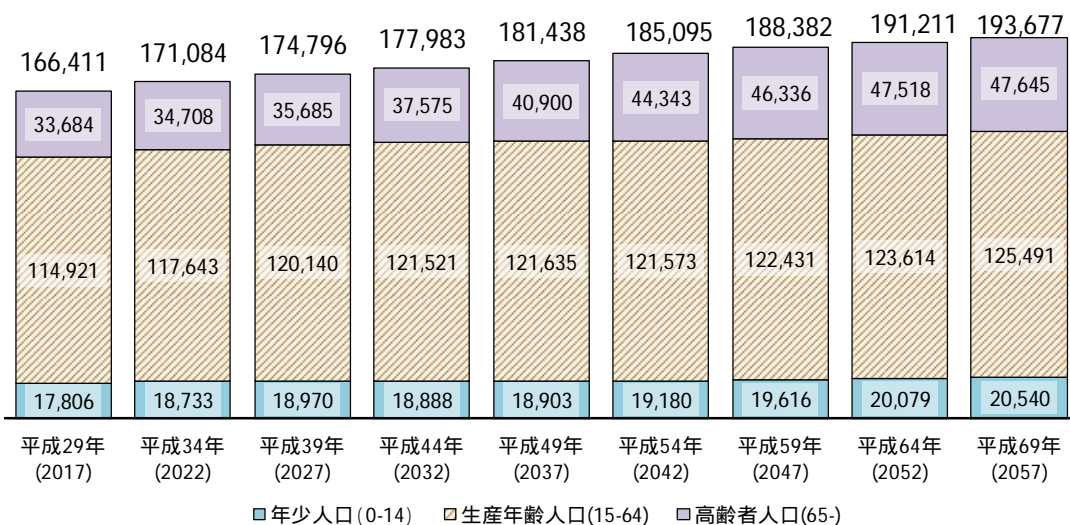
(4) 練馬区の将来推計人口(地域別)



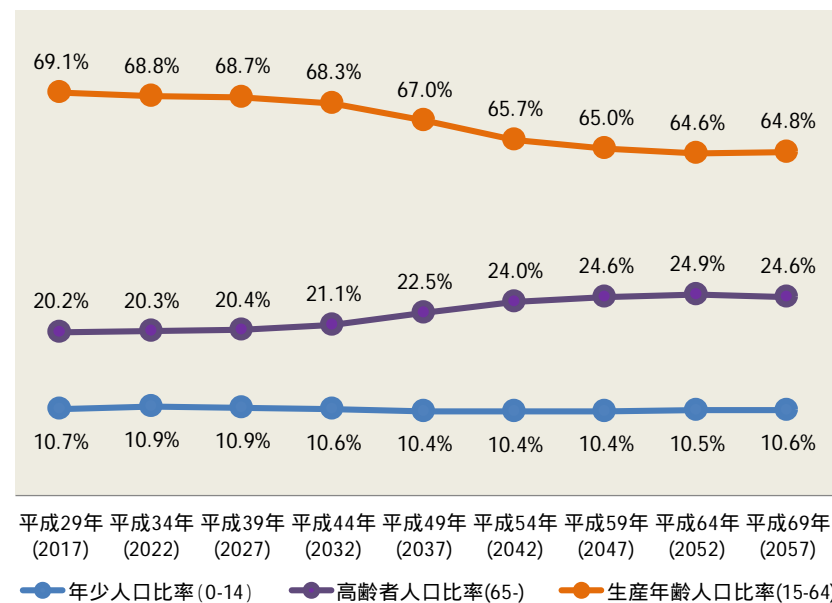
練馬地域の将来推計人口(実数・年齢三区分別率、日本人のみ)

練馬地域は、過去5年の人口動向を踏まえると、今後も人口増加が続く結果が得られる。
 練馬区地域は、他の3地域と比べ、都心に近いことから、若い世代が多く、生産年齢人口の比率が高い。

将来推計人口の推移(練馬地域) 日本人のみ



年齢三区分別率の将来推移(練馬地域)



練馬区の人口の将来推計

(4) 練馬区の将来推計人口

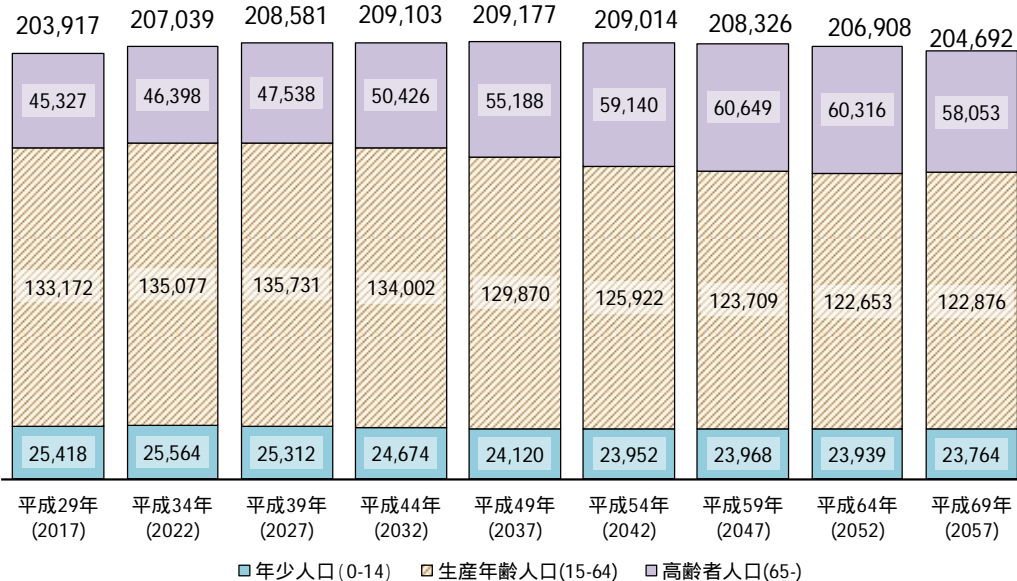
石神井地域の将来推計人口（実数・年齢三区分比率、日本人のみ）



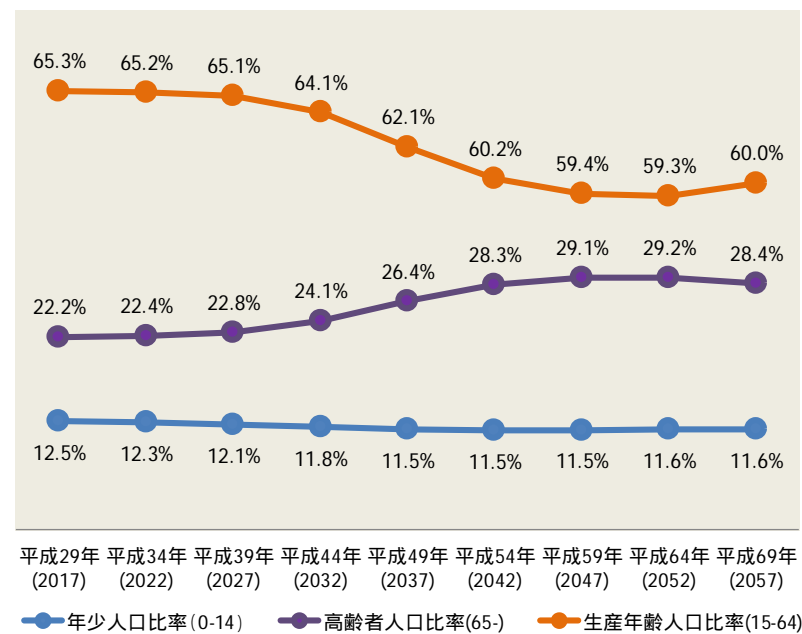
石神井地域は、平成40年初頭から、人口ボリュームの多い世代が65歳以上に移行することで、高齢者人口の増加のペースが上がり、生産年齢人口の大きく減少していく。

30年後に平成59（2047）年頃からは、高齢者人口も減少を始め、石神井地域の人口は減少に転じる。

将来推計人口の推移（石神井地域） 日本人のみ

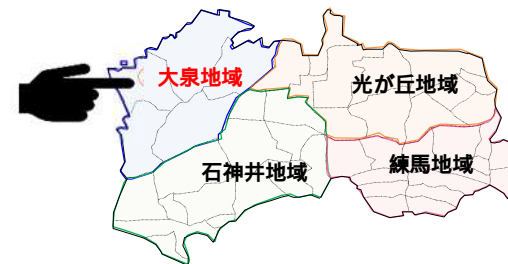


年齢三区分比率の将来推移（石神井地域）



練馬区の人口の将来推計

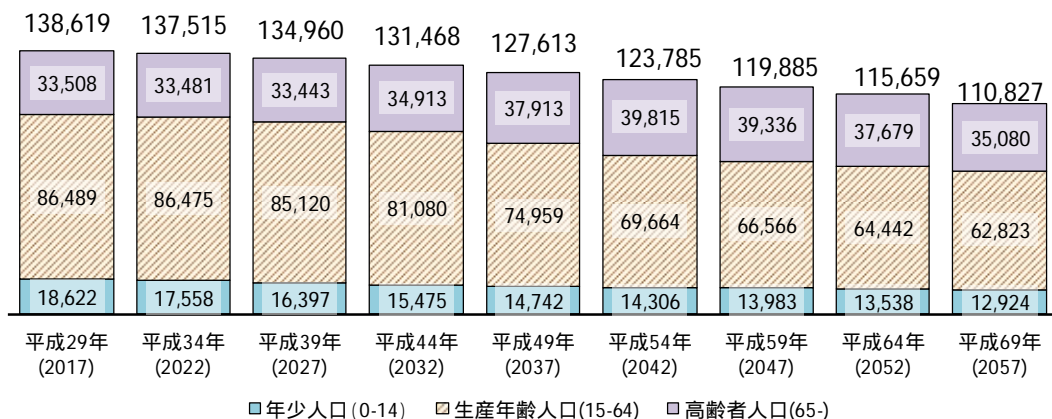
(4) 練馬区の将来推計人口



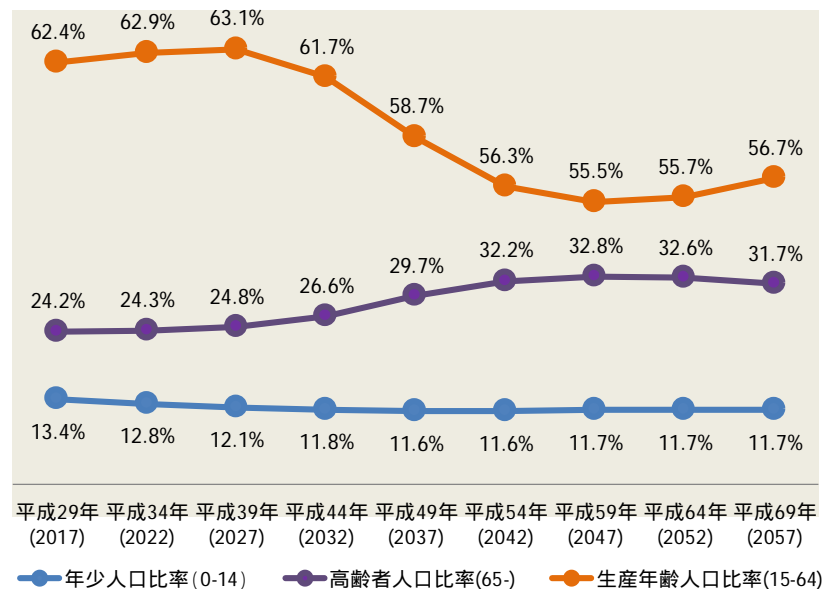
大泉地域の将来推計人口（実数・年齢三区分比率、日本人のみ）

大泉地域は、他地域よりも早く、すでに人口減少の局面に入っているものと思われる。他の3地域に比べ、高齢化率の高く、自然減（出生<死亡）の影響が大きいことが要因に挙げられる。しかし、今後の都営大江戸線の延伸に伴う沿線地域の開発等により、転入者数が増えることにより、減少トレンドから抜け出す可能性はある。

将来推計人口の推移（大泉地域） 日本人のみ



年齢三区分比率の将来推移（大泉地域）



練馬区の人口の将来推計

(4) 練馬区の将来推計人口

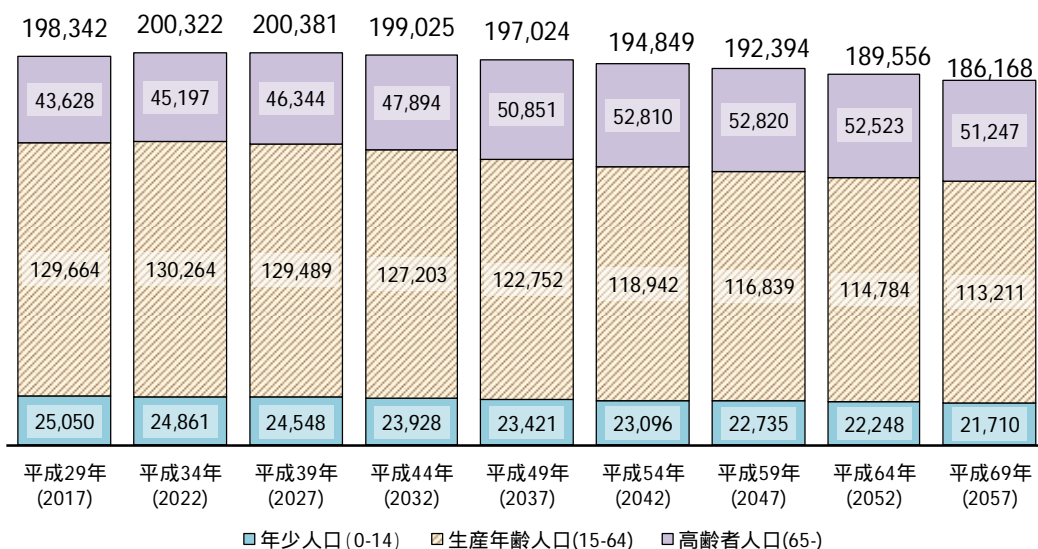


光が丘地域の将来推計人口（実数・年齢三区分比率、日本人のみ）

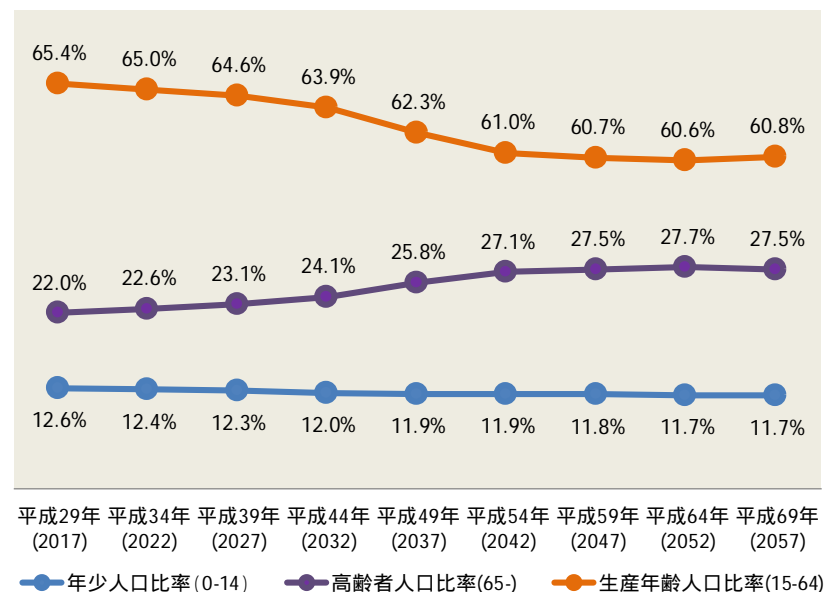
光が丘地域は、平成40年前半から後半をピークに人口減少に向かう。

石神井地域と同じような年齢構成だが、「団塊の世代」の人口が若干多いため、自然減による影響が大きいものと思われる。

将来推計人口の推移（光が丘地域） 日本人のみ



年齢三区分比率の将来推移（光が丘地域）



|| 今回の資料のまとめ ||

- ✓ 練馬区の人口は、板橋区からの独立してから、一時期を除き、増加傾向にある。
- ✓ 直近3年の人口増加の特徴として、外国人の増加が目立っており、しばらくは外国人の増加傾向が続く可能性が高い。
- ✓ 区の人口増加の大きな要因は、社会増であり、特に20～29歳の転入超過が目立っている。
- ✓ 人口増加の要因の一つである自然増減については、今のところ死亡数より出生数が多く、人口増に寄与している。
- ✓ 年少人口、生産年齢人口は減少し、高齢者人口が増え、高齢化率は着実に高まっており、21.7%に到達。
- ✓ 区の将来推計人口は10年後の2027年頃までは増加を続け、以後減少に転じる。
- ✓ 30年後の将来推計人口は約727,000人と、現在とほぼ同じ人口を維持するが、年齢構成は現在と大きく異なる。